



一橋大学 商学部 2年
パク ヒョンア
朴 賢我
(韓国)



渡日前入学許可の 果たす役割

◆私の将来の夢

高い経済成長のもとで、社会はますます豊かになりました。中国やインドを含むアジア・太平洋地域も目覚しい経済発展を続けています。しかしその一方では、恩恵を受けられない人たち、貧困層が世界中に7億人から8億人いると言われています。現在、1日1ドル以下での生活で苦しんでいる人口は、世界中で約11億人にのびります。

現在、日本は経済面においてアジア地域の発展や生活水準の向上に大きく貢献しています。しかし、貧困問題は未だに大きな社会問題として残っています。私は、卒業後アジア地域における貧困問題の解決に取り組む計画を持っています。専門分野である商学の知識を生かし、実質的な問題解決に取り組みたいです。そして、国際性を身に付け、将来世界という舞台で活躍し、社会に貢献できる人になりたいです。これが、私が日本留学を決めた理由です。

◆釜山での受験勉強と受験対策

私は、日本で日本語学校に通いながら受験勉強をしたわけではなく、韓国で日本語を勉強し、直接留学したケースです。プサンにあるワセダ日本語学院で、日本留学試験(EJU)を準備し、小論文やレポートを書く練習をし、模擬面接をするなど、多様な準備をしました。直接留学の場合は、日本文化・日本事情に接する機会が少ない面もありますが、そのかわりメリットも多いと思います。私の場合は、自分の国で留学準備をすることによって受験勉強だけに集中することができたことが一番よかったと思います。塾には朝9時から夜10時まで日本人の先生と韓国人の先生がいて、いつでも解らないことがあったら聞くことができましたし、習った日本語表現を中心として日本人の先生と会話の練習をしました。そしてビデオやNHKの番組などを視聴しながら内容を理解し、その内容の要約について自分の意見を述べる練習をしました。そして、速読の練習を通して、新聞や雑誌の記事といった一般的な日本語の文章を、日本の大学生と同様の速さで読む能力を身に付ける勉強をしました。社会問題に関するテーマでディスカッション・ディベートを行い、自分の意見を述べ、クラスの前でプレゼンテーションを

する等、大学で勉強するために必要な知識と能力を身に付けることを目標としました。また、塾には1時間ごとに留学試験科目別の授業が開設されていて、自分のレベルに合わせて履修することができました。さらに、朝日新聞の天声人語や日本経済新聞などの社説を毎日読むことや、希望する大学の先生が書いた本を読むことなど、私ができることなら最善を尽くしました。

◆渡日前入学許可

6月と11月の日本留学試験の成績の結果を利用して、国外から直接出願を受け付ける入試方法で私は慶應義塾大学の経済学部と明治大学の経営学部を志願し、合格しました。私のように日本ではなく、海外で勉強している受験生にとっては、入学選抜のために出願者に渡日させることなく、入学を許可する制度は非常に利点が多いと思います。

独自の入学試験や書類選考だけで渡日前に入学許可を出すことは、海外で日本留学を準備したい受験生に留学の夢を成らしめるチャンスを与えることだと思います。

しかし、この制度を実施している大学の数が多くないことと、もっと多様な学部で渡日前入学許可が実施されればもっとよかったと考えます。私は結局、最後に合格した一橋大学の商学部に入りましたが、慶應義塾大学と明治大学の渡日前入学許可を得るために日本留学試験や英語成績の高得点を目指して勉強したことや、書類審査で自分をアピールするために準備した勉強などの様々な努力は、日本で留学生活をしている現在、言葉では表現できないほど大事な力になったと思います。これからは高校卒業後、直接日本留学を希望する高校生や、自分の国で集中的に留学準備をして渡日する人がますます増えると思われます。

今後益々進展する国際化の時代の中で、この渡日前入学許可の制度は日本留学において欠かせない重要な役割を果たすと確信します。



ドンズー日本語学校と 私の日本留学準備体験談

東京工業大学 工学部 1年
グエン フー クイ
Nguyen Huu Quy
(ベトナム)



❖ 厳しいドンズー日本語学校

私は日本に来る前に、ベトナムのホーチミンにあるドンズー日本語学校で約8カ月間日本語を勉強しました。短期間でしたが、私にはとても有意義な時間でした。

最も今なお印象深いのはドンズー日本語学校の厳しい教育です。毎日、朝から昼まで日本語を勉強し、午後からは日本語で理系科目、数学を学び、ひたすら復習をくりかえしました。リラックスのために、土日には野外活動がありました。

なぜこのような厳しい教育をしているのかとホ工校長先生に伺ったことがあります。ホ工校長は「ベトナム人留学生は、ほとんど日本で仕送りをもらえずに、アルバイトをしながら勉強し生活する。だから、ベトナムで今、頑張らないと、ましてや日本では頑張れない、それに、大学での勉強は非常に大変なので、ベトナムにいる間に出来るだけ数学や理系科目(日本語で)を勉強したほうがいい」とおっしゃいました。実は校長と先生方の厳しい訓練を経たおかげで、現在日本での勉強と生活でいろいろ役に立っています。

❖ 東京工業大学の情報

日本でどんなことをどんな分野を勉強するのかはとても大切だと思いますが、私は色々戸惑い悩みに悩みました。先生と相談したとともに、『学問前線』(河合塾)という本を読んで、私は勉強したい専攻分野を決めました。

そして、文部科学省などのウェブサイト、『私費外国人留学生のための大学入学案内』等の案内書を参考にして、東京工業大学を受験することに決めました。東京工業大学のホームページを見て募集要項を請求し、送ってもらいました。他に、大学の試験問題に慣れるために、過去の問題も先輩と大学からもらうことができました。過去の問題を試すことは、大学受験にとっても重要だと思います。

❖ 大学の情報に望むこと

日本の大学の情報はとても充実していると思います。インタ-ネットや本などのような、いろいろ情報を収集する方法はあります。それに、各大学に留学生募集要項もあって、詳しく書いてあるので、とても有難いと思います。

しかし、私が一番分かりにくく困ったことは日本留学試験の成績(点数)で、どんな大学を受ければいいのかということでした。

日本留学試験の日本語や数学など、何点とれば願書がだせると応募の資格を明記している大学もありますが、多くはないと思います。だから、大学を選ぶときはとても迷いました。それに、募集要項に可否を判定する基準もはっきり書いていません。例えば、筆記試験が何点満点でどの程度の割合か、面接試験が何点かなども詳しく書いてほしいです。

❖ 勉強とアルバイトの両立

ドンズー日本語学校出身の留学生は皆、日本でアルバイトをして稼ぎながら、生活費と学費を支払っています。ベトナムと日本では、物価が大きく違い、経済格差もすごく大きいので親の仕送りだけで日本で生活するのは不可能です。私たちは、学費を2年間毎月5万円強払ってきました。最初の1年は、片言の日本語なのでアルバイトも生活も難しかったです。毎月ほとんどぎりぎりでも暮らしていました。夏休みのような長い休みにはほとんど毎日働きました。生活のためだけではなく、大学受験の準備もしました。2年目に、日本学生支援機構の学習奨励費を頂くことになり、生活が少し楽になって、勉強にもっと集中できるようになりました。やはり、語学勉強の2年間では、経済的には困りましたが、アルバイトを頑張っ、同時に勉強に頑張っていくと何とかなると思います。

❖ 日本語学習の苦労

日本語ですが、第一にいえることは漢字は難しいです。言葉と話したりや聞き取ることは日本に長くいればいるほどよくできるようになりましたが、漢字はキチンと毎日勉強を続けなければなりません。私もよく勉強したつもりですが、使わない漢字はきれいさっぱりと忘れてしまい、なかなか大変だと思います。

次に、尊敬語、謙譲語の使い分けの難しさは言うまでもないことです。時々、日本留学を諦めたいと思ったこともあります。

毎日、新聞を読み、ラジオを聴き、大学受験に備え、数

学、理系科目の本も読み始めました。日本語で書いた本だと、語学の勉強にも役に立ちました。最初は本当に大変でした。

少しずつ勉強していくと段々おもしろくなってきました。

❖ 日本留学試験の受験対策

どんな試験にもあてはまることだと思いますが、試験に慣れるために、過去の試験問題は試したほうがいいと思います。特に大学の試験問題は大学によって違うので、問題に慣れないと非常に大変です。

日本留学試験の問題はほとんど基礎の問題(理科、数学)なので、計算力と幅広い知識が非常に重要です。そして、私が一番関心を持ったのは「集中力」のことです。日本留学試験は1日で何科目も受験するので、非常に疲れるのではないのでしょうか。午前に受験する日本語はまだいいですが、午後に受験する理科、数学は相当に疲れると思います。だから、毎日の勉強でも「集中力」を訓練したほうがいいと思います。

❖ 日本に留学して良かったこと

日本に留学してから、母国について知らないことがはっきり見えてきました。特に、ベトナムの文化、経済などが以前より分かるようになってきたと感じています。

加えて、現在、日本に留学してるので日本人は当然ですが、日本人の学生以外にも世界の様々な国から来た留学生と接する機会も多く、お互い刺激あつての勉強や生活はとても面白いと思います。

また、日本は技術が非常に発達していますし、東京工業大学でも高度な技術をいろいろと学ぶことができます。

私は、自分の将来だけでなく、母国ベトナムの発展、そしてベトナムと日本の友好関係構築に貢献できると信じています。



ペナン発クアラルンプール経由、 日本留学(私の道程)

大阪産業大学 人間環境学部 1年
テオ シュー イン
Teo Siew Ying
(マレーシア)



◆ 帝京マレーシア日本語学院の思い出

高校を卒業する時に、自分の将来はどう決めればいいのか悩みました。色々調べたあげく、結局日本に留学することにしました。インターネットで、帝京マレーシア日本語学院(以下「IBT」)は、日本へ留学したい学生に日本の大学の受験準備コースがある学校であることを見つけました。そして、何も考えずに、すぐIBTに入学しました。初めて授業を受けた時はショックでした。なぜかという、教えてくれる先生達は皆日本人で、日本語が全然分からなかった私達に日本語だけで授業を行いました。先生達は私達が理解できるように、絵や身体の動きで言葉の意味を伝えました。この教え方は面白くて、最も覚えやすいと思います。クラス全員は赤ちゃんのように、聞いても全然分からない言語を学び始めました。そして、レベルが上がるにつれ、小学生、中学生そして高校生になったように感じました。IBTでは、日本語の勉強だけではなく、常に野外活動や日本のお祭りにも参加しました。これにより、日本の習慣も理解できました。日本留学試験は11月にあるので、先生達は約10カ月間可能な限り教えてくれました。だから、先生達の教えるスピードが凄く速かったです。最初はあまり自信がなかったですが、先生達の教え方や先生達が私たちを信じてくれたおかげで、日本語がだんだん上手くなってきました。

◆ 日本の大学の情報

毎年8月・9月頃に、日本の大学は国内外で留学生を募集しています。先生方は生徒全員のためにインターネットで各自の希望大学を調べてくれました。大学についてはあまり分からなかったのも、もし何か勉強したい分野が見つかったら、すぐ先生に連絡することでした。そして、先生は一生懸命に調べてくださり、自分に一番合う大学が見つかるまでに、何度も私と相談しました。大阪産業大学は、ホームページを見て、日本に受験しに行かなくても、日本留学試験の成績で直接合否が決まることがわかりました。

もちろん、私は他の大学も受けてみようと思いましたが、一度も海外へ行ったことが無い私にとって、非常に大きな挑戦でした。心配して心配して、私は日本へ行かないで、日本留学試験の成績だけで挑戦することにしました。で

すから、その時から、日本留学試験でいい成績をとるために、さらに頑張って勉強しました。

大学の情報から、どんな大学にどんな学部があり、学部の特徴とか、大学の歴史、及び教育方針など、大体のイメージはわかります。そうすると、大学を選ぶのが楽になります。一方で、一つの学部にどんな専攻科目があるとか、授業はどのような形式か等がはっきりしていません。すぐに大学に質問しても、なかなか返事をしてくれないし、不安な気持ちになったこともありました。

◆ 日本留学にかかった経費、 日本語学習で苦労したこと

日本に留学するのに、まず日本語を勉強しなければなりません。私は地元のペナンから300キロ離れた首都クアラルンプールにあるIBTで実家を離れて1年半勉強しました。IBTでかかった経費、大学受験経費、1年分の学費と入学の手続き、これまでの生活費など、いままでも約400万円かかったと思います。

マレーシア人の私は幼い時から、必ず3つの言語(英語、マレー語、中国語)を勉強しなければなりません。だから、その3つの言語に加えて、日本語の勉強もするのは本当に大変でした。時々習った言語がめちゃくちゃに混乱することもあります。更に、15カ月の勉強で、日本人の高校生のように話すのは無理だと思います。しかし、一生懸命頑張れば無理ではありません。すると、だんだん他の言語に関するものが日本語に代わりました。例えば、毎日聴く音楽とか、ドラマ、漫画、本等も日本語のみになりました。

ただし、自分の言語はあまり使わなくなるから、だんだん下手になりつつあります。これが、留学生にとって、一番の悩みだと思います。

◆ 日本留学試験の受験対策について

日本留学試験は毎年6月と11月にあります。私は2006年の1月にIBTに入ったので、6月の試験を受けるのが無理と思いました。だから、11月に試験を受けることにしました。日本留学試験では日本語だけではなく、数学と総合科目もあります。私にとって、10カ月の間にすべての科目を上手に把握することが本当に難

しいと思いました。

しかし、IBTの先生はできると信じてくれました。もちろん、学生たちの努力も必要不可欠です。試験の前だけ勉強するのではなく、必ず毎日習ったことを復習しました。それに、常に図書館へ行って日本留学試験の過去の問題を解くこともいい練習だと思います。

◆ 大阪産業大学に留学してよかったこと

外国人として、日本人の学生と同じ授業を受けるのはあまり自信がありませんでした。不安の気持ちを持ちながら大学の生活を始めました。授業中に先生の話聞き取れる単語だけでも一生懸命に聞いたり、板書をノートに写したり、わからない言葉を辞書で調べたりします。言葉や文化の違いで困ったこともありましたが、いつも私の周りの優しい友達や先生方が私を暖かく支えてくださったので、徐々に大学の生活に慣れてきました。

それに、日本人の友達もたくさん作ることができました。授業中、先生の書いた字が見つからない時に、隣の席に座っていた日本人に声をかけたら、必ずノートを貸してくれて非常に助かりました。時々、問題や分からないところがあれば、学生課の職員に相談して一緒に問題を解決します。あっという間に半年以上、日本での生活が過ぎました。正直に言うと、日本での一人暮らしは本当に大変でした。

しかし、友達がいれば、どんな問題にあっても解決できると信じています。大阪産業大学に留学して本当によかったと思います。これからも日本に居る間、日本に留学している仲間と日本の友達とともに、自分の夢に向かって頑張っていこうと思います。



千葉大学 法経学部 1年
エルデネマーム
Erdenemaam Maisuren
(モンゴル)

マイルスレン



日本留学、夢から目標へ

◆新モンゴル高校の思い出

新モンゴル高校の3年間は私の人生にとって一番大切なときでした。新モンゴル高校が私に歩むべき道を教えてくださったため、私はもちろん、私の家族もいつも感謝しています。将来のモンゴルを背負っていく人材の育成を目標とし、生徒に勉強だけでなくコミュニケーション能力などを培わせ、様々な活動に参加させることで社会的に育つことを目指しているのが、新モンゴル高校の特徴だと思います。同校に入学し勉強した3年間で、自分自身を多方面から見つめることができ、新たな自分を発見し、成長することができたと思います。その中でも一番良かったことは、高校時代に一生の友人を見つけ、さらに自分の夢や目標を見つけることができたことです。

◆日本の大学の情報

主な方法として、新モンゴル高校やモンゴルにある「モンゴル・日本センター」の図書館にある『私費外国人留学生のための大学入学案内(JASSO監修)』という本を読み、私に適すると思われる大学の情報をインターネットで調べました。校長先生が毎年日本を訪れる度に、その年に出版された同『入学案内』を持って来てくださるので、最新の情報を得ることができ、とても助けられました。また、すでに新モンゴル高校の先輩方は、30以上の大学や高等専門学校に留学中なので、色々な情報を聞くことができました。日本に来なければ分からないことを知ったり、優秀な先輩がいることで受験資格が新たに認められたりしたため、とても感謝しています。

◆日本の大学の情報のわかりにくかった点

日本の各大学は詳細な情報を含むウェブサイトを持っているので、情報は得やすかったです。しかし、TOEFLのスコアが必要かどうかという点が、ウェブサイトにならなくていい大学がいくつかありました。願書を大学に提出した後に、TOEFLのスコアが必要と言われ、すぐにTOEFLを受験しても結果が出るのが遅いため出願に合わず、困ったことがありました。TOEFLが必要なら、その情報も詳細に掲載してほしいと思います。

◆日本留学に掛かった経費

昨年度まで、モンゴルの就学年数は小・中・高校を合わせて10年間であり、高校課程を1年間延長した新モン

ゴル高校でも11年間でした。しかし、11年間の就学年数での受験が認められない大学が多く、各大学に国際電話を掛けて直接問い合わせをする必要があり、費用が掛かりました。次に、願書などの必要書類の郵送費、実際に日本へ行く際の往復航空運賃、3つの大学の受験料として掛かった9万円、日本での生活費、交通費、宿泊費など、経費が多く掛かりました。

私の両親の給料は日本円で1カ月に、合わせて4万円くらいですので、借金するしかありませんでした。富山大学、山形大学、千葉大学の3つの大学を受験し、私を支えてくださった皆様のおかげで3大学ともに合格することができましたが、結果的に入学先として選んだのは千葉大学です。しかし、合格したにも拘わらず、入学を辞退せざるを得なかった、2つの大学の関係者の皆様にはとても申し訳なく思っています。もし、渡日前入学許可を認めていただければ、経済的な負担もかなり少なくなり、それだけではなく、日本に留学したいという多くの学生の夢が叶えられるのではないかと考えます。

◆日本語の学習

私は新モンゴル高校に入学してから日本語を学び始めましたが、多くの経験豊富な先生方のおかげで、短期間で日本語能力試験2級に合格することができました。もともと日本語はモンゴル語に似ていて、文法や言葉の順序がほぼ同じです。また、新モンゴル高校を訪問される日本人の方々との交流会においてお話を交わし、日本についての興味深いお話をお聞きできたことも、私たちのモチベーションを引き上げ、日本語能力を向上させる大きな力となりました。しかし、3年間だけの学習では日本留学試験で高得点を獲得することは難しいため、自宅でも1日に3時間程は勉強し、特に受験が近づいてからは睡眠は2時間だけとし努力しました。

◆日本留学試験、大学の入学試験対策

日本留学試験は日本語能力試験と違い、総合科目と数学の試験があることが私にとってプラスとなりました。日本語の試験では満点を取ることはできませんでしたが、総合科目と数学の科目に関しては、新モンゴル高校での学習のおかげで、満点に近い得点を取ることができたと思います。同校で学んだことは、試験のためだけでは

なく、今も大学の講義やゼミを理解し討論することにも、さらに日常生活においても役に立ち続けています。

日本の大学の入学試験については、モンゴルの大学の入学試験と違い、面接と小論文の試験があることが、私たちにとって新鮮で興味深かったです。特に面接試験は、受験者が一体どういう目的で何を勉強したいのか、どのような思いを持っているのかなど、その人を直接理解することができるので、モンゴルの大学にも取り入れることが望ましいと考えます。私にとって面接試験があったからこそ、なぜ日本に留学したいのか、なぜ経済学を学びたいのか、などの理由を私の目標と夢に結び付けて熱く話すことができ「合格」できたのだと思います。

◆日本に留学して良かったこと

日本に留学したいという私の夢は、新モンゴル高校に入ってから「夢」から「目標」になったと思います。私は将来、経済の専門家になり、モンゴルの中央銀行に就職し金融システムの改革に寄与することで、母国の発展に貢献したいと考えております。また、現在深刻化している環境問題にも関心があるため、モンゴルの大学のカリキュラムに今までにない環境経済学という科目を取り入れることも、もう1つの目標としています。新モンゴル高校の支援者の皆様や、NGO「ACA-AQUA」及びマブチ国際育英財団の皆様のおかげで、今こうして日本に留学することができ、目標に向かって一生懸命に頑張っています。

現在私は、千葉大学の法経学部の1年生です。千葉大学はとても良い大学で、優しい方々が多くいらっしゃいます。その中で私が一番感謝している方は、いつも親切な留学生課の課長の藤咲さんです。千葉大の国際交流会館の入館申請に遅れてしまい、家賃が高い民間アパートを借りることができずに悩んでいたところに、廉価な寮を見つけてくださったのです。藤咲さんのおかげで、アルバイトをしていただいた初めての給料で家族にプレゼントを買うことができ、涙が溢れそうになるほど嬉しかったです。日本に留学して本当に良かったと思います。